

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日：2023年 3月 31日

|                            |   |   |
|----------------------------|---|---|
| <p>テーマ名</p>                | <p>「中小企業がDX推進を促進するための周辺技術の研究」</p>   |   |
| <p>届出組織等名称</p>             | <p>企業内ITコーディネータ・ITガバナンス研究会</p>  |   |
| <p>成果物公開URL</p>            | <p></p>   |   |
| <p>当活動代表者<br/>及び担当者連絡先</p> | <p>(代表者氏名) 古川 正紀<br/>電話番号: 03-5953-6121<br/>e-mail: furukawa@astop-si.co.jp</p>   | <p>(担当者氏名) 同左<br/>電話番号:<br/>e-mail:</p> |
| <p>研究・調査<br/>成果概要</p>      | <p>「昨年度はDXの本論から論じたので、本年度はブレイクダウンして周辺を論じてみたらどうか…」と言う、ある研究員の発言から今年の活動が開始した。一口にDXと言っても「DXは顧客志向であり、経営者の関心事を中心に取組むのが好ましい…」と言う流れである。そうなると昨年同様、一つの絞り込んだテーマにして各研究員が章立てに応じて部分を論じる…というのは、極めて困難であり、今年も「各研究員の注目テーマを、各々が深掘して論述する」形式とさせて頂いた。</p> <p>全体を表すテーマとして、「中小企業がDX推進を促進するための周辺技術の研究」とさせて頂いたが、無論周辺にあるのは「技術」だけでなく「+α」も必要で、日本でDXを推進してゆくためには、技術だけでなく他の要素も考慮する必要があるのではと仮定もし、また外的要因もあるのではと想定し、中小企業がDX推進を促進するために必要な”非技術?”についての考察も織り込みたいと考えた。</p> <p>結果的には、各執筆者それぞれが、うまくポイントを書き分け、自身の主張すべき点を述べさせて頂いたように感じている。結局のところ個々に対応すべき対象に対して、「あるべき最善のDX推進」を私たちITコーディネータは支援させて頂くに尽きるというところで、論を閉じさせて頂いた。</p> |   |
| <p>成果物</p>                 | <p>章立ては、</p> <p>1章 はじめに<br/>2章 社会環境の急激な変化<br/>3章 X-Tech(ク<br/>4章 中小企業が勝ち残るための戦略<br/>5章 歴史に学ぶ、DXと伴走支援のあり方<br/>6章 おわりに<br/>別紙: 要点ごとの「添付資料」</p> <p>とし、ITコーディネータの活用シーンにフォーカスして、論述致しております。</p>   |   |

|               |                  |
|---------------|------------------|
| <p>事務局受付日</p> | <p>2023/3/31</p> |
| <p>案件番号</p>   | <p>S22008</p>    |